

平成 28 年度サンライフ土山ショートステイ

事業計画書（案）

職員一人一人が自覚を持ち、丁寧な言動で業務・利用者様対応を行うことで、利用者様のショートでの生活の満足度の向上につなげていく。定期・ロングショートの利用者様の確保の為に、特養・デイ・ケアマネ・老健等とも密に連絡をし、情報交換を行っていく。

I. 職員の人材育成

利用者様が満足するサービスを提供できるように、職員一人一人の意識・コミュニケーション能力・介護技術の向上を行う。

- ① 利用者様はお客様であるという意識を持ち、丁寧な言葉づかい・行動で支援する。
職員一人一人が業務の流れを把握することで、スムーズな利用者様対応につなげていく。また、利用者様の顔と名前を確実に一致させ、誤薬等の事故がないように心がける。
- ② 日ごろから利用者様とコミュニケーションを積極的にとっていき、利用者様側から自然とお話をしてくださる関係性の構築を図る。また、職員間で話し合った内容もユニット職員全員に周知徹底できるようにする。
- ③ 内部研修をベースとして介護技術の向上を図る。日ごろから職員間でもコミュニケーションを密にとり、月に1回ユニット会議を開催し話し合いの場を設けることで介護の経験が少ない職員でも、先輩職員に介護方法等を聴きやすい環境づくりを行う。介護技術を向上させることにより、利用者様が安心して生活できるようにする。

II. 個別サービスについて

ユニット型のショートであることを活かして、利用者様一人一人にあったサービスを提供できるようにする。おやつ作りやレクリエーション、季節の行事など利用者様のニーズを把握したうえで企画・実行し利用者様の満足度につなげる。利用者様のなじみの関係性はショートユニットだけではなく、特養ユニットの利用者様・職員にもある為、ショートユニットだけで生活するのではなく、散歩をかねて他のユニットに行き交流を図ることで、なじみの関係性の継続や日頃は感じられない刺激によって相互の利用者様の気分転換が図れるように支援していく。

III. 収入・利用者様の確保

昨年度はロングショートから特養への利用者様の移動の月に収入が減っており、スム

ーズにロングショートの利用者様を確保できていなかった。年間を通じて、1.9人/日の空床があった。昨年度から引き続き、ロングショートの利用者様が特養へ移動する前から、特養の第一グループの方や以前からサンライフグループを利用しておられ自宅での生活が困難になってきている方にいつでも次のロングショートに入れる形で事前の面談や健康診断を受けていてもらうようにし、空床をなくし、特養の入院ベットの活用を行う。

また、定期の利用者様も入院や他施設入所などで変化がある為、現在よく利用している方や新規の利用者様で今後も継続的に利用が出来るような方に声を掛け、収入の確保を行う。特養・デイ・ケアマネ・老健等とも密に連絡をしたり、月に1度、事業所にまたショート契約時にケアマネにパンフレットを配布し、一人でも多くの利用者様の確保に努める。

平成 28 年度の目標収入

(単位：千円)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計
平成 27 年度実績	2,049	2,639	3,725	3,401	3,280	3,349	18,443
平成 28 年度目標	3,356	3,508	3,554	3,794	3,875	3,751	21,838

	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
平成 27 年度実績	2,527	3,148	3,950	3,513	3,078	3,666	38,325
平成 28 年度目標	3,794	3,672	3,671	3,590	3,242	3,794	43,601

※平成 27 年度実績の 2 月・3 月分は目標の数値です。